



阿久根商店擴張

不況に際し事業を縮少するのが當然であるが、ソロ線に是れと反対の行き方をしてゐる商店の多いのは、或る意味に於て心強さを覺へる。

ランシヤリアの阿久根商店も其の例に洩れない。アバレーで得た苦い経験を基に文字通り刻苦を擧げ、今はアバレー在住當時以上の信望を博してゐる。店も漸次擴張し今度東服部を新設、トルコ商人占の觀あつた反物を薄利で一般の便宜を圖る事になつた。

精米機新設

エルナンド、ボトランチン、エラッソと棉の收穫期になると三どもゑになつて買出しに狂奔するので、從て各社は撃つて有利きの外賣員を地方に派遣し又各地の有力な商人をコミサリオとして、ヨリ安くヨリ多くモットーに毎年到る處で喜悲劇を演じてゐるが、一度棉界の偉業を成し立つて來たのを、アバレー、セルケーラ以上

棉の栽培に關して
農業欄

（一）

根切虫

（二）

根切虫

（三）

根切虫

（四）

根切虫

（五）

根切虫

（六）

根切虫

（七）

根切虫

（八）

根切虫

（九）

根切虫

（十）

根切虫

（十一）

根切虫

（十二）

根切虫

（十三）

根切虫

（十四）

根切虫

（十五）

根切虫

（十六）

根切虫

（十七）

根切虫

（十八）

根切虫

（十九）

根切虫

（二十）

根切虫

（二十一）

根切虫

（二十二）

根切虫

（二十三）

根切虫

（二十四）

根切虫

（二十五）

根切虫

（二十六）

根切虫

（二十七）

根切虫

（二十八）

根切虫

（二十九）

根切虫

（三十）

根切虫

（三十一）

根切虫

（三十二）

根切虫

（三十三）

根切虫

（三十四）

根切虫

（三十五）

根切虫

（三十六）

根切虫

（三十七）

根切虫

（三十八）

根切虫

（三十九）

根切虫

（四十）

根切虫

（四十一）

根切虫

（四十二）

根切虫

（四十三）

根切虫

（四十四）

根切虫

（四十五）

根切虫

（四十六）

根切虫

（四十七）

根切虫

（四十八）

根切虫

（四十九）

根切虫

（五十）

根切虫

（五十一）

根切虫

（五十二）

根切虫

（五十三）

根切虫

（五十四）

根切虫

（五十五）

根切虫

（五十六）

根切虫

（五十七）

根切虫

（五十八）

根切虫

（五十九）

根切虫

（六十）

根切虫

（六十一）

根切虫

（六十二）

根切虫

（六十三）

根切虫

（六十四）

根切虫

（六十五）

根切虫

（六十六）

根切虫

（六十七）

根切虫

（六十八）

根切虫

（六十九）

根切虫

（七十）

根切虫

（七十一）

根切虫

（七十二）

根切虫

（七十三）

根切虫

（七十四）

根切虫

（七十五）

根切虫

（七十六）

根切虫

（七十七）

根切虫

（七十八）

根切虫

（七十九）

根切虫

（八十）

根切虫

（八十一）

根切虫

（八十二）

根切虫

（八十三）

根切虫

（八十四）

根切虫

（八十五）

根切虫

（八十六）

根切虫

（八十七）

根切虫

（八十八）

根切虫

（八十九）

根切虫

（九十）

根切虫

（一一）

根切虫

（一二）

根切虫

選外佳作
兄妹

若伏哲雄

(六)

私はコロニアの入口で園部の婆さんにバッタリ出會つた。婆さんは、室外用ランプをかざして、私の頭の上から何時もの皮肉な薄笑ひを投げつけた。

「飯沼さんや、あんた細井さんところへ行きましたかい？」

「はア」

「君枝が、居なかつたちやろか？」

「知りません」

「ほんにまた、あの娘は何處さ

に行つたちやろか！ ジャンタも

せえで、ほんに何んちゅことち

やろか。馬鹿娘が……」

婆さんはぶつ／＼言つて、そ

「でも……」

「傳染るぞ！」

「私は何故に無難作にこんな言葉を出したか、自分にもその心

理が解らない。日頃から伯母の

待ち構へて居たやうに婆さん

は、君枝の言葉などは耳にもせ

てもええ、早く歸れ言ふに。

は、尼馬鹿娘言ふならまア……

君枝は涙を拭いて、また妹の

死人に等しい顔を覗き込んだ。

「君ちゃん、済まなかつたね。伯母さんが探

して居たから……」

「わたし夕方來た時は、こんな

では無かつたの……」

君枝は涙を拭いて、また妹の

死人に等しい顔を覗き込んだ。

「お前マア何ちゅこつちや。馬

鹿が……しま頃まで何事ぢや

「町子さんのが悪いの……」

「家の仕まいもせんで……」

「鹿が……」

「ま頃まで何事ぢや

「町子さんのが悪いの……」

「家の仕まいもせんで……」

「鹿が……」

